

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大里柳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

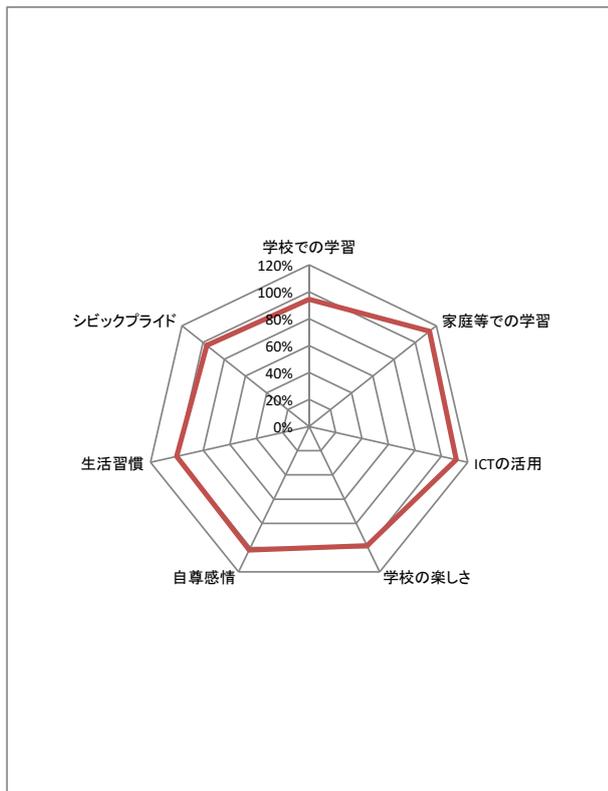
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体的に全国平均正答率を上回っている。</li> <li>○ 学習指導要領の内容として「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「読むこと」について全国平均正答率を上回っている。</li> <li>○ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「話すこと・聞くこと」について全国平均正答率を下回っている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る問題の平均正答率が高かった。</li> <li>○ 「我が国の言語文化に関する事項」では、日常の読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかを見る問題の平均正答率が特に高かった。</li> <li>○ 「書くこと」では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかを見る問題の平均正答率が高かった。</li> <li>○ 「読むこと」では、すべての問題の平均正答率が高かった。人物像を具体的に想像することができるかどうかを見る問題の平均正答率が特に高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかを見る問題の平均正答率が低かった。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の平均正答率が低かった。漢字の書き取りに対する無回答率が高い。</li> <li>○ 「話すこと・聞くこと」では、目的や意図に応じて集めた材料を分類したり問題付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る問題の平均正答率が低かった。</li> </ul>	

算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全ての領域・観点・問題形式で全国平均正答率を上回っている。</li> <li>○ 無解答率が、全国の無解答率と比べて高い。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「数と計算」の領域において、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかを見る問題の平均正答率が高かった。</li> <li>○ 「図形」の領域において、球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかを見る問題の平均正答率が高かった。</li> <li>○ 「変化と関係」の領域において、道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る問題の平均正答率が高かった。また、速さの意味について理解しているかどうかを見る問題の平均正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「数と計算」の領域において、数量の関係を口を用いた式に表すことができるかどうかを見る問題の平均正答率が低かった。</li> <li>○ 「図形」の領域において、直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかを見る問題の平均正答率が低かった。</li> </ul>	

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



**質問調査の結果分析**

- 「学校での学習」においては、全国平均を下回っている。「授業で学んだことを活かし自分の考えをまとめる活動」、「課題解決のため自分で考え自分から取り組むこと」、「話し合いを通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすること」等の質問内容で全国平均を下回っている。「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する活動」については、全国平均を上回っている。
- 「家庭等での学習」において、全国平均を上回っている。「学校の授業時間以外の勉強を行う」の質問で全国平均を上回っている。
- 「ICTの活用」において、全国平均を上回っている。「学校の学習以外でもPC・タブレットなどのICT機器を使う」などすべての項目で全国平均を上回っている。今後もICT機器の活用方法を工夫し、学習の中で積極的にタブレットを活用していく。
- 「学校の楽しさ」において、全国平均をやや下回っている。子どもが学校が楽しみとなるよう、新しい学校生活様式の中でもできる集会などの活動時間確保をしていく。
- 「自尊感情」において、全国平均をやや上回っている。今後も学級内での児童一人一人の居場所づくりを行い、「あなたがいないと困る」という自己有用感を高める取組を行うようにする。
- 「生活習慣」において、全国平均をやや上回っている。「朝食を毎日食べている」について、全国平均を上回っている。しかしながら、「毎日同じ時刻に寝起きしている」については、全国平均をやや下回っている。
- 「シビックプライド」において、全国平均をやや下回っている。「地域や社会をよくするために何かしてみたい」については全国平均をやや下回っている。

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

全職員で「スクールプラン」の本校での取組内容について共通認識をし、「探究的な学び」「書く活動（ノート指導）・ふりかえり・GoodNoteの掲示」「学習規律（大里柳小スタンダード）」「タブレット端末の効果的な活用」の重点化を図る。

〈継続して行う具体的取組〉

○ 探究的な学びを実現するための授業づくりの5つの着眼として、「①具体的な活動や体験を通して気付きや考えを生み出すための工夫 ②身近な生活に関わる見方・考え方を生かし気付きの質を高めあうための工夫 ③児童が探究的な学びの必要性を見出せる単元づくり ④単元のゴールを明確にした探究的な課題設定の工夫 ⑤探究的な学びに対して多様な方法で整理・分析する仕方を示し協働して考え表現する工夫」を仕組む。

○ 全職員で、ノート指導において「めあて・まとめ・自分の考えのあるノートづくり」を行う。さらに、思考の足跡が読み取れるノートづくりを指導し、自分の思考の足跡を基に自分の考えを他の人に説明できるようにする。

○ 考えの広がりや深まりを意識化できるように、発表や振り返りの仕方を工夫する。（〇〇さんの考えを参考にし、〇〇さんの考えを取り入れて）

○ タブレット端末を効果的に活用した授業づくりを行う。低学年では、算数科のアプリ、ドリル活動、生活科では、観察記録写真、調べ学習を行う。中・高学年では、デジタル教科書の活用、社会科では、地図帳付属QRコード読み取り、理科では、観察記録、総合的では、調べ学習やパワーポイント等で活用していく。

〈国語科の具体的取組〉

○ 導入時に何のためにどのような学習を行うのか学習問題を明確にする。

○ 目次や牽引、見出しに着目して読んだり、キーワードを見つけながら読んだり、図表と結びつけて話したりさせる。

○ 自分の考えを整理する時間（一人活動・振り返り）をとる。

○ 多様な書く活動（自分の考えを何字以内に書かせたり、筆者の考えを基に記述させたり、複数の条件を基に記述させたり）を考える。

○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるように、漢字ドリルを行ったり、タブレット端末を効果的に活用したりする。

〈算数科の具体的取組〉

○ 図形を構成する要素に着目して、タブレット端末を効果的に活用した授業づくりを行う。図形の意味や性質、構成の仕方について考えさせる。

○ 「書く」活動の充実を行う。自分の考えがあるノート指導を行ったり、テープ図や数直線をノートに書かせて問題を解かせたり、複数の情報から分かることを書いて話し合わせたりさせる。

○ 「数と計算」では、数量の関係を□を用いた式に表すことができるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

全職員で「スクールプラン」の本校での取組内容について共通認識をし、「子どもの心の育ち」の重点化を図る。

〈継続して行う具体的取組〉

○ 児童会での「柳っ子全員であったか言葉をあつめよう」の取り組みを引き続き行い、子ども同士で自分のよいところや友達のよいところを見つけて褒め合う。また、見つけたあったか言葉やあったか行動について放送することで、学級や学年同士でお互いのよさを認め合う。

○ 帰りの会で各学級よいところみつけを行い、子ども同士が認め合える場をつくる。

○ 学校行事において、子どもたちが活躍する場を多く設定する。

〈子どもの心の育ちを高める具体的取組〉

○ 児童が活躍できる場面の実現

・ 会いたい友達・先生、学びたい授業、明日も楽しみな大里柳小を目指す。本校のキーワード「ほめほめ：成功体験を積み重ね自尊感情を高める」「わくわく：楽しい学校にする」「にこにこ：温かく笑顔あふれる学校にする」を実践する。

・ 児童会を中心に「あいさつ運動」に取り組む。

・ 代表委員会での取組「柳っ子全員であったかことばを集めよう」で各学級の学活や帰りの会で互いを認め合い、褒め合う取り組みを継続していく。

・ 学級では、児童が成就感・達成感を味わうことができるように役割を与え、児童への肯定的な言葉がけを行う。発表のときや振り返りのときに友達の考えを取り入れたり、ヒントにしたりしたことを伝えることで互いに自己有用感を高める。

・ 縦割りグループを軸とした異年齢集団での活動を通して、思いやりの心や自尊感情・自己有用感を高める特別活動の充実を図る。

・ 「対人スキルアップ」に短時間で取り組み、児童のコミュニケーション能力を高める。

・ 「北九州子どもつながりプログラム」を計画的に実施し、児童同士の人間関係を深める。また、学級や学校への所属感を高め、有用感をもたせるために、低学年では、当番活動、中学年では当番活動と係活動、高学年では委員会活動を充実させる。

○ 状況や背景に気を配った、きめ細やかな対応

・ 学期に1回の「いじめアンケート」を実施し、全児童に面談をすることにより、早期発見に努めるとともに誰もが相談しやすい体制の整備を行う。

・ 児童に寄り添い、個別の教育相談や電話対応、家庭訪問を行う。